

CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社エム・ティ・エス 岡崎	階数	地上2階
建設地	愛知県岡崎市小針町字西島46番	構造	S造
用途地域	6地域	平均居住人員	90 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,600 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2018年11月25日
敷地面積	7,622 m ²	作成者	吉岡
建築面積	4,556 m ²	確認日	2018年11月25日
延床面積	8,894 m ²	確認者	吉岡



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	83%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

音環境	3.2
温熱環境	2.2
光・視環境	3.3
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

機能性	3.4
耐用性	2.9
対応性	4.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

建物外皮の	4.4
自然エネ	3.0
設備システ	3.4
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	2.5
汚染物質回避	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化	3.6
地域環境	2.5
周辺環境	3.0

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.6

③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

52.4 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

2.9

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		居住・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体		
		Q 建築物の環境品質															
Q1 室内環境																	3.0
1 音環境																	3.2
1.1 室内騒音レベル																	3.0
1.2 遮音																	3.0
1 開口部遮音性能																	3.0
2 界壁遮音性能																	3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																	-
1.3 吸音																	4.0
床、天井に吸音材使用																	0.20
2 温熱環境																	2.2
2.1 室温制御																	3.5
1 室温																	3.0
2 外皮性能																	5.0
3 ゾーン別制御性																	3.0
2.2 湿度制御																	1.0
2.3 空調方式																	1.0
3 光・視環境																	3.3
3.1 屋光利用																	4.2
1 屋光率																	3.0
2 方位別開口																	5.0
3 屋光利用設備																	3.0
3.2 グレア対策																	3.0
1 屋光制御																	3.0
3.3 照度																	3.0
3.4 照明制御																	3.0
4 空気環境																	3.8
4.1 発生源対策																	4.0
1 化学汚染物質																	4.0
4.2 換気																	3.3
1 換気量																	3.0
2 自然換気性能																	4.0
3 取り入れ外気への配慮																	3.0
4.3 運用管理																	4.0
1 CO ₂ の監視																	3.0
2 喫煙の制御																	5.0
禁煙																	0.50
Q2 サービス性能																	3.5
1 機能性																	3.4
1.1 機能性・使いやすさ																	3.0
1 広さ・収納性																	3.0
2 高度情報通信設備対応																	3.0
3 バリアフリー計画																	3.0
1.2 心理性・快適性																	4.0
1 広さ感・景観 (天井高)																	4.0
2 リフレッシュスペース																	5.0
3 内装計画																	3.0
1.3 維持管理																	3.5
1 維持管理に配慮した設計																	4.0
2 維持管理用機能の確保																	3.0
2 耐用性・信頼性																	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振																	3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																	3.0
2 免震・制震・制振性能																	3.0
2.2 部品・部材の耐用年数																	2.7
1 躯体材料の耐用年数																	3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																	2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																	3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																	3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																	3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔																	3.0
2.4 信頼性																	3.0
1 空調・換気設備																	3.0
2 給排水・衛生設備																	3.0
3 電気設備																	3.0
4 機械・配管支持方法																	3.0
5 通信・情報設備																	3.0

3 対応性・更新性			0.2	4.2	0.29				-	4.2
3.1 空間のゆとり			0.2	5.0	0.31				-	
1	階高のゆとり	②	IF階高6.6 2F4.8	5.0	0.60				-	
2	空間の形状・自由さ			5.0	0.40				-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31				-	
3.3 設備の更新性			0.4	3.0	0.38				-	
1	空調配管の更新性	②	壁長さ比率0.05 床荷重5.88kN/m ²	3.0	0.17				-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.17				-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.11				-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.11				-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.22				-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.22				-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39				-	2.8
1 生物環境の保全と創出			独自③		3.0	0.30			-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.4	2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-				-	3.0
LR1 エネルギー					-	0.40			-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPIm0.86	3.0	4.4	0.02			4.4
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.27			3.0
3 設備システムの高効率化				BEIm0.76	3.0	3.4	0.42			3.4
4 効率的運用					3.0	3.0	0.28			3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00			
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50			
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50			
集合住宅の評価					-	-	-			
4.1 モニタリング					-	-	-			
4.2 運用管理体制					-	-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			-	2.8
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15			3.0
1.1 節水					3.0	3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.5	0.63			2.5
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		-	3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		-	3.0	1.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					-	3.0	2.0	0.05		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		-	3.0	3.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	4.0	0.68			
1 消火剤					-	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)					5.0	5.0	0.50			
3 冷媒					3.0	3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①		3.6	3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮					0.5	2.5	0.33			2.5
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25			
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制			独自		-	3.0	0.25			
3 交通負荷抑制			独自		-	4.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					0.5	3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40			
1 騒音			独自		-	3.0	0.50			
2 振動			独自		-	-	-			
3 悪臭					-	3.0	0.50			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40			
1 風害の抑制					-	3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					-	3.0	-			
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					0.5	3.0	0.20			
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)株式会社エム・ティ・エス 岡崎小針工場 新築計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	外構緑化:52.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)株式会社エム・ティ・

計画上の配慮事項	
総合	株式会社エム・ティ・エスの分散している生産拠点を、集約するための新工場新築工事。 工場の快適性と省エネに配慮した。
Q1 室内環境	外皮の性能を上げ、室内環境の向上に配慮した。
Q2 サービス性能	オフィスにはOAフロアを採用し、可変性に配慮した。 オフィスと同規模のリフレッシュスペース(食堂)を計画した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内の緑化により、生物環境の保全に配慮した。
LR1 エネルギー	LED照明を採用することにより、エネルギーの削減に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	発泡材を用いた断熱材未使用。
LR3 敷地外環境	広告物照明を行わない。 適切な数の駐車スペースを確保。
その他	特にありません。